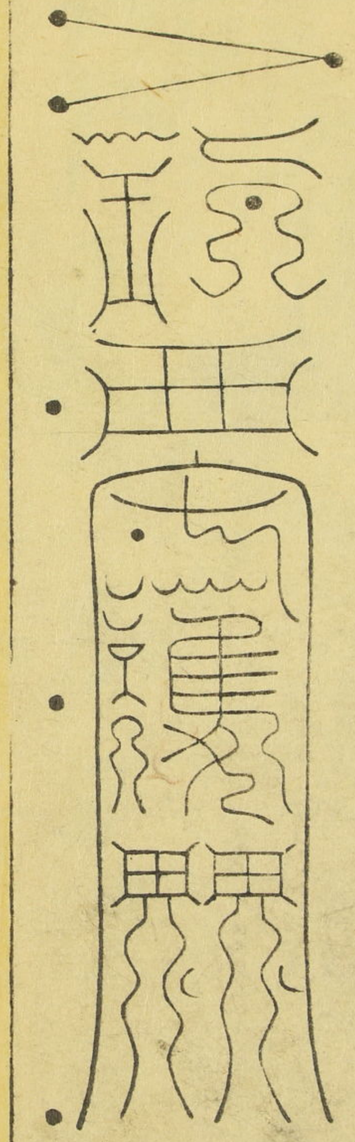
樂亭西馬錄
一雄齋國輝画
笑壽屋梓
下
へ13
3693
28
弓張月 十四編
仕題時之関白
上
へ13
3693
27

弓張月
仕
四編
仕
上
へ13
3693
27

へ13
3693
27

# 西馬譚 弓張月十四上 國輝画



茲に載る所の扎い琉球國中の家毎に張置戸守門守等又は號神祓にも用ゐとらてなくんと綿圖いざ〳〵ぬ

楓園玄魚

錦耕堂



弓張月十一編より琉球國の談に移りて寧王女が危窮の場に白縫姫主従の霊魂顯出て王女の身内に添ひ勇猛を働くのみにて猶十二より十五編の半途まで御曹子共譚に絶て十五編の下集より亦為朝朝臣現るべきに出るより如一其間ちと色彩の薄ひ画体ゐ甚だ牛の怪獣蒙雲ゞ法師形の建歟松壽が比老寧王女が小具の花形みて更浄いりとても欲め月のその利勇が奸悪中二階の中婦君の洗髪の羽二重蔓湯堂形容ゐ親仁方の尚寧王が心を洗ひ花車敵の阿公が安達の一家めくる殺伐にゆゝ鶴亀が愁歎場大詰の引返しにて國陽焼酎火も凄この見どころ唐衣の怨ゝ大査國吉が荒事の大殺陣ゐ小道具の拵ひ渦巻と云獣ゆゑ趣向ゐ同じく時代世話これ一日の戯場ゐ筆〳〵此演劇の捲巻軸八郎ゝ明神の鎮座迫ゐ十八九編めにて千秋樂の太鼓とゐ〳〵欵唯四方ゐ響きそ配出しの序開附込の桟敷敷物の前後に競ひ給ひん支を祈るありけり

嘉永八乙卯年早春發市

樂亭西馬述

○全次子亀

鬱結の
名はのこる
千々の幸く
万苦ふ処を
ぐくぐくぐく
楽亭

○毛國鼎が
遺息長子鶴

○北谷
阿公

○毛國鼎が妻新垣



○相國
利勇

○毛國鼎が
亡霊

幻僧蒙雲者君王石
之偽逆賊也依而恩
知者年微臣利勇
居所未倶敵討加勢
可致恩賞有之者也

○東風平
按司陶松壽

勢のかゝる
鎗
薙刀
あり
弓
矢
西馬

○寧王女

去ゆく〳〵遠く仙山
魔ざるれど
立者も
通る

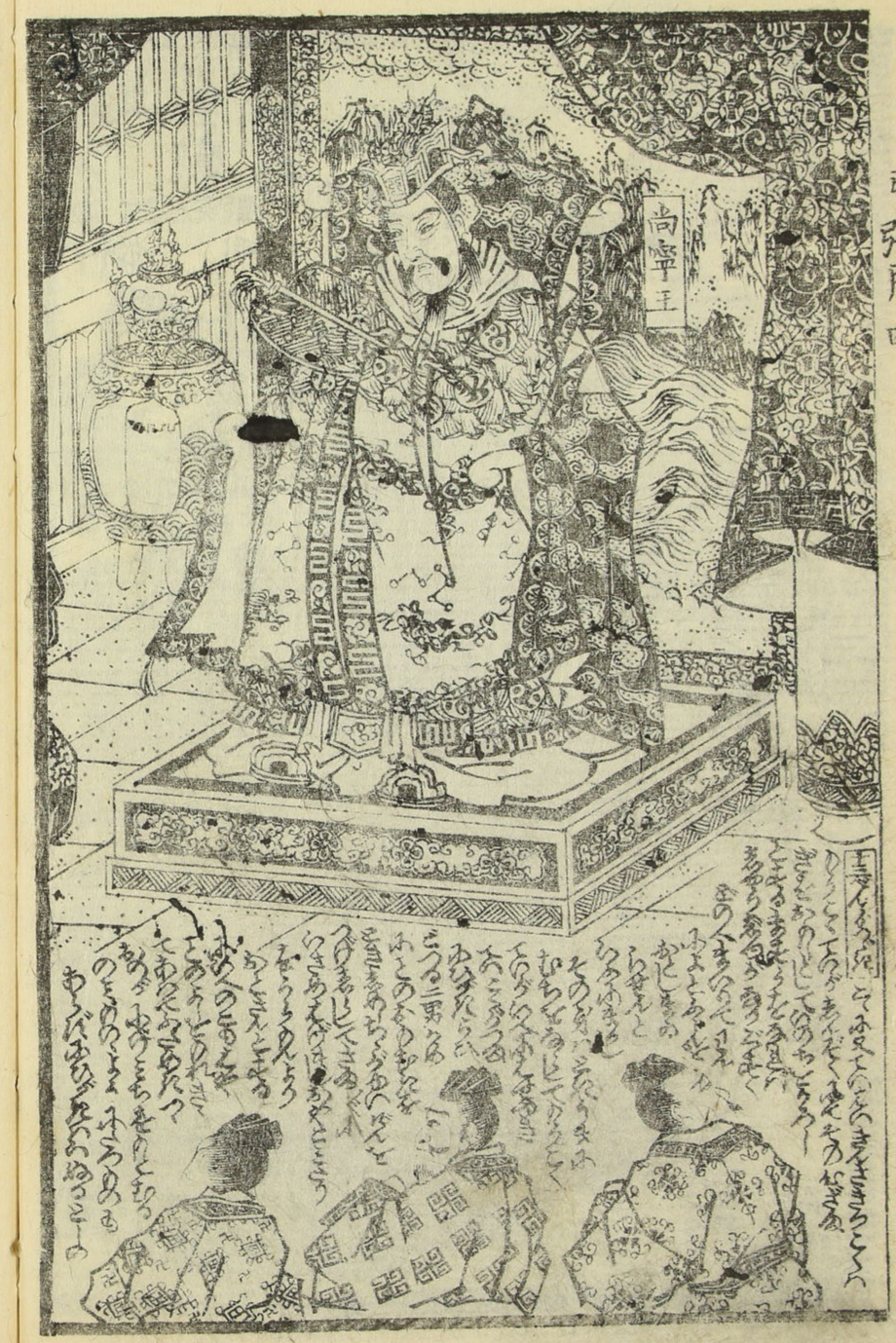
○捉牌金

査國吉

○蒙雲國師
自法君と
称す

一下猴

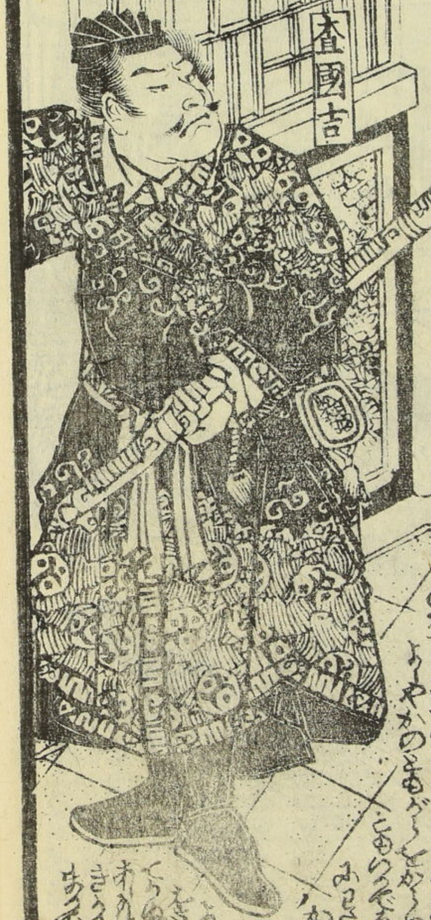
○幻術獣
渦映


尚寧王

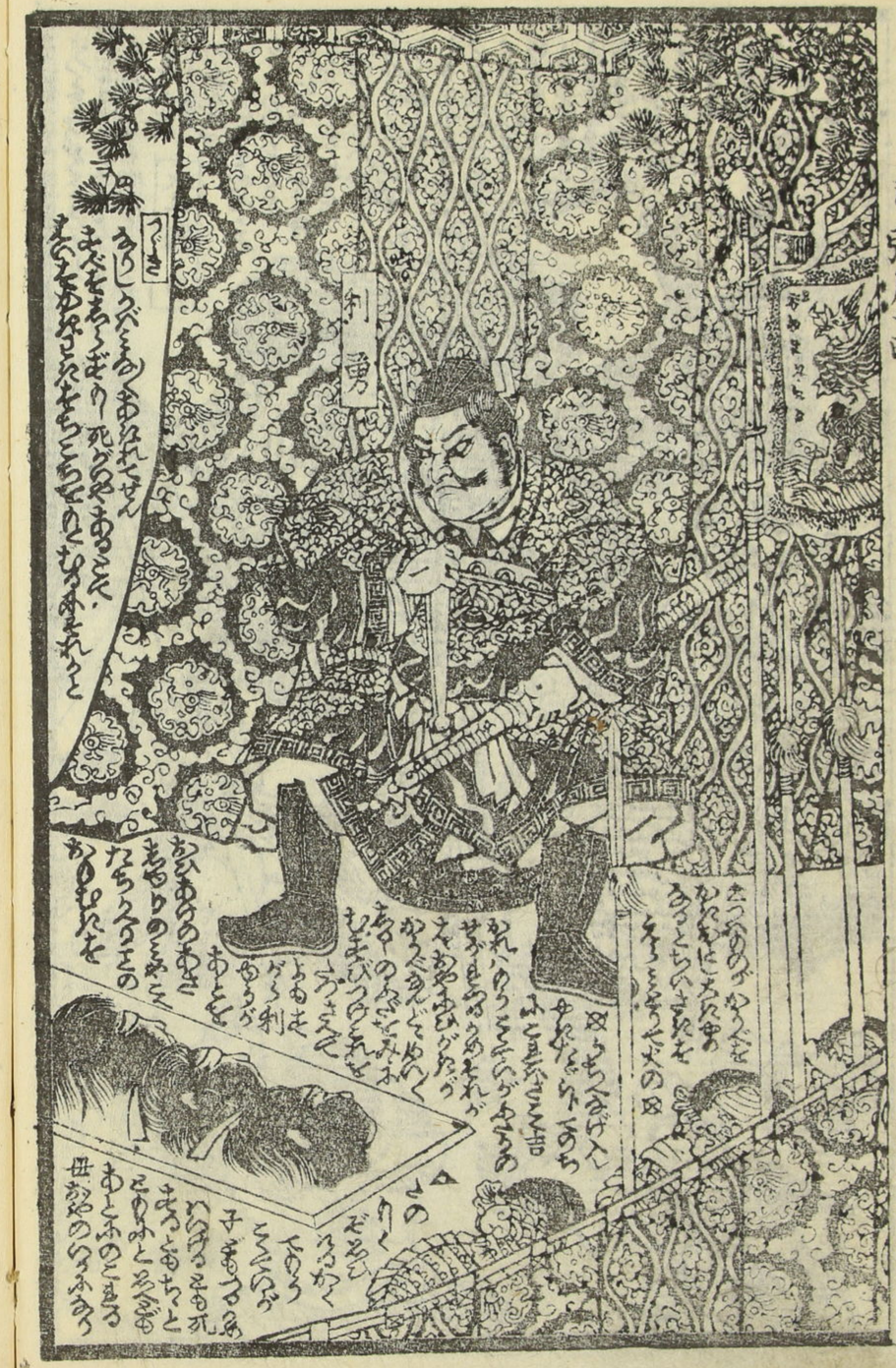
利勇

「つゞき」さまの
ゆくすゑのこと
ろもまもるの
つるときそうん
ちづくらくらくら
ぢぶいくまでく
めでたいのの
いろいろのう
まれりのへ
ふさふさとして
いけのうへひろ
のんびりあそぶも
おごつくもべ
をまつ
だけのよう
やくあと

よとい
いつまで
百年・の
のの
まもる
ゆうゐん
おろく
ごろの
あんみ
さるる
このさん
とゝろごも
つゞくと



つづき




つづき

きりしづくるくまおれせん
もえをもちこぎり死がやまうこん
まんでもあなどをもちこちをりとものめれうと

ゆうべのうちのがかうくを
おれもにたれ
みうとちひさまを
そうこそうぞ又の四

四うちくだけ人
ゆんなら下のち
みこまぶさこそ吉
おれのうこそがみうさの
せがもあるのそれが
そあるまひがうが
かうくえんぐぬくぬく
あるのみぶさみふ
むまびつのそれを
ぶさえそ
よるはがうく利
あうが
あとも

おんあのあさ
もりのこみそ
なちうこのこと
かのぴんを

よのりく
ぞそ
ろかく
下のう
こそのが
子ぞまる
いうるもれ」
まうともちと
そりみとぶぞも
あとふのこまる
世おのりふみう

まつ見ぶんくを
ぞくまをそーだうとうくんとおまつせん
ごうまをひるのとのふこうくきそこぎ
まうべーとうへとしてうれるうこの△

利やうくびやうらふねき
ぺーむっ次日いまぢちお
おちざきをまうくろ
どそちうんやさ世お
いんエのんのうふ
おーんとさまる△

ざんをおおエそのおる
ざるんてんまさおうう
のうこのるさそ
のこのうんまうう
利やうくびやうらふねき
ゆめながくるみのふ
らくまさくまうくるみのそ
のうまうくうるみのそ
ちうふさのまうくうるみのそ
そおおうひざねお方
をちー
ふふ
まぶ
ちを
ふうう
ふ

新垣

雷雀

亀

阿公

つゞき かさえもの月かげもあらそふ
ざるこぎもちかふる母がむかふはしまつさきを
見ーわたそうのそえわいつものうちもちのあんどまで
ちゞめてるたくらもそろひもいつでもうぶ
つきまでぎをへーめのそうをぢわちくてえすせ
つゞきかさえもの月かげもあらそふ
ちゞまれてぎをへーめのそうをぢわちくてえすせ
あゞらつくしいぬっ
月おもしろかまし
ちくてうちおどろいて
なりちとよくぶ
ひとりいつをまちとへ
かとうの剣
勇がん
ちふめくこうへるふ
そんやまちめてこうへるふ
ちゞめをろひてこうへるふ
ちゞめをろひてこうへるふ
いらのちうつまふうれのひさこ
ぶうなとうれがまのくまでものへ

▣のさびかく山ちゝと
さえくと
新坦 ゆくなと
まおきの
ふきうぐの
ふりう此川へ
さんやくかう
第二の大河
ぶたゞて日
ふぐをぐ
さぎるう
うめへ
ひとしく
なうへ
ぶぐもかれ
ぶぐもかれ

▣ふるひしかす
ふるふる白いれ
いちのうえのうちづ
いちのうえの▣
ざしにおれいりとまそ子
母いまぢうふうむもう
きんぎのうえるがへ
まそうまるをけるがへ
りうとさう
ふぐふぐ
あゞぶいめあう
そのとふふ▣
ろうきーねぎふみゞがえ
のうふうとうくく
ちゞまれやぶうふ
ちゞまれやぶうふ
ちゞまれやぶうふ

つづき

霍

雷



阿公

新垣

亀

# 國輝畫

## 西馬譯文

阿公

下のもの


嘉永八乙卯春新彫目錄

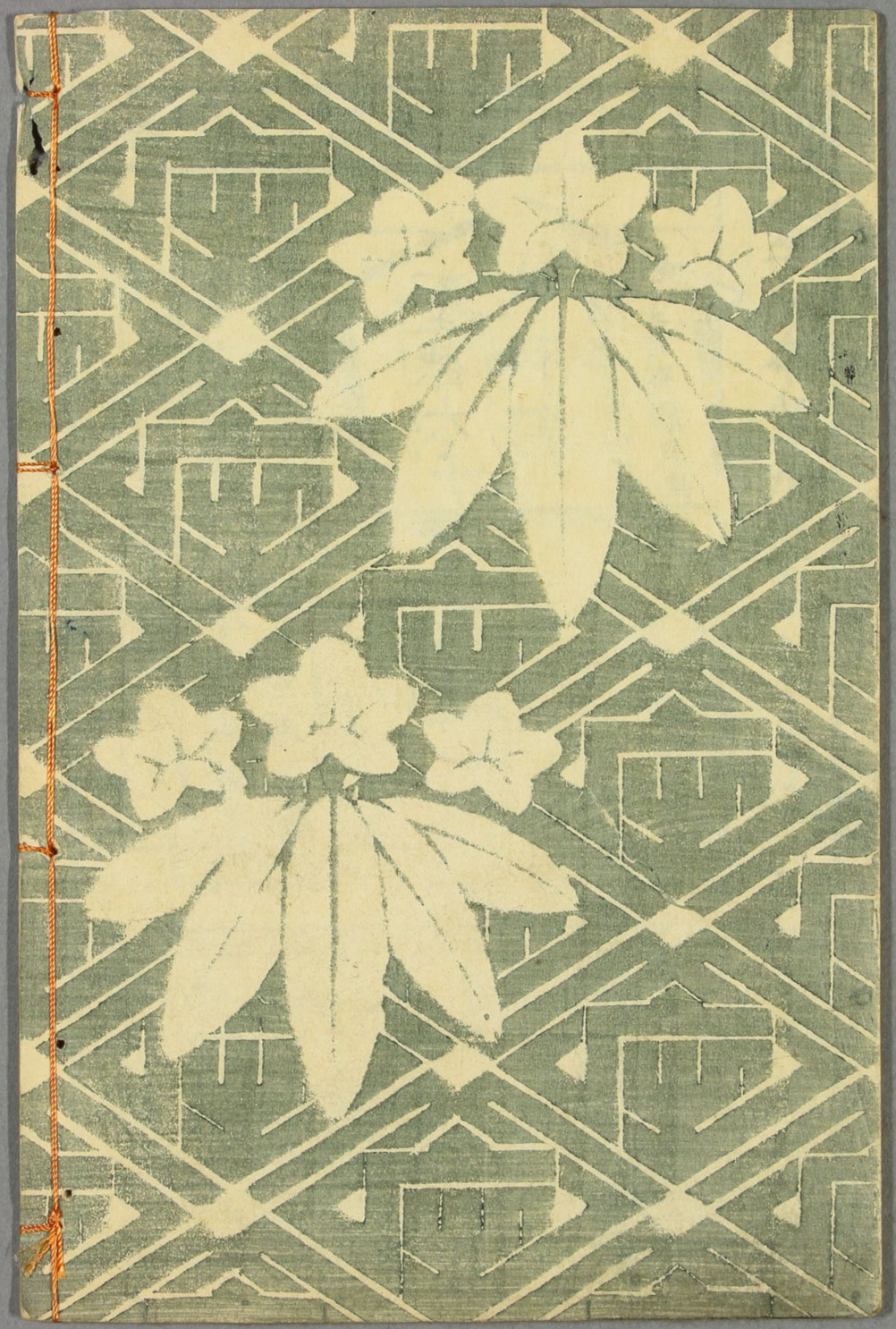
竹雀千代咲　西馬補案　國輝画圖

聖徳太子大和鏡　万亭應賀作　一寿斎國貞画

三鍵形鏡倉双帋　西馬作　國輝畫

雲龍九郎偸盜傳　故人三馬遺稿　増補西馬案　画工一勇齋

釜地本草紙問屋　てうしや町　笑壽屋庄七版

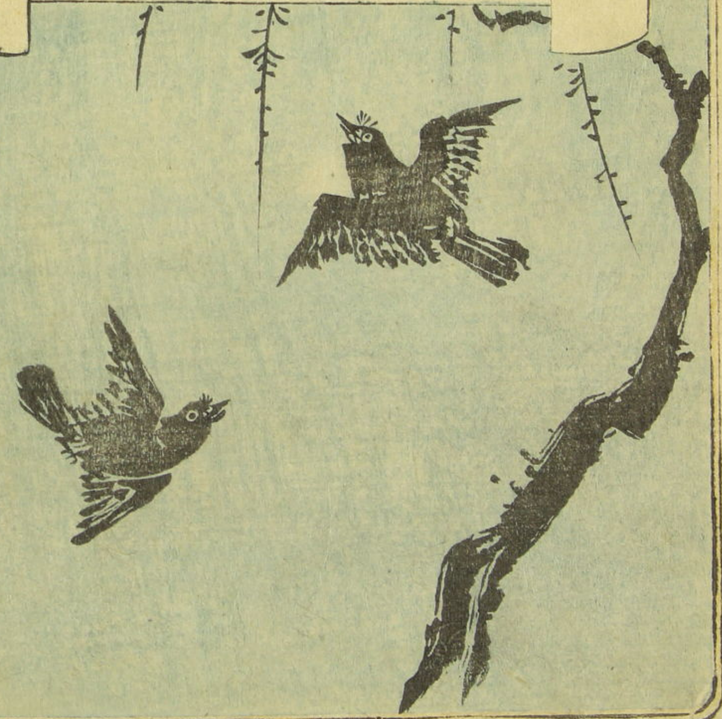


へ13
3693
28

門 へ13 3693 28

# 勇美坡里月
# 第十四編下
# 冊一雄齋畫
# 錦昇堂發兌

乙卯新春
西馬譯文

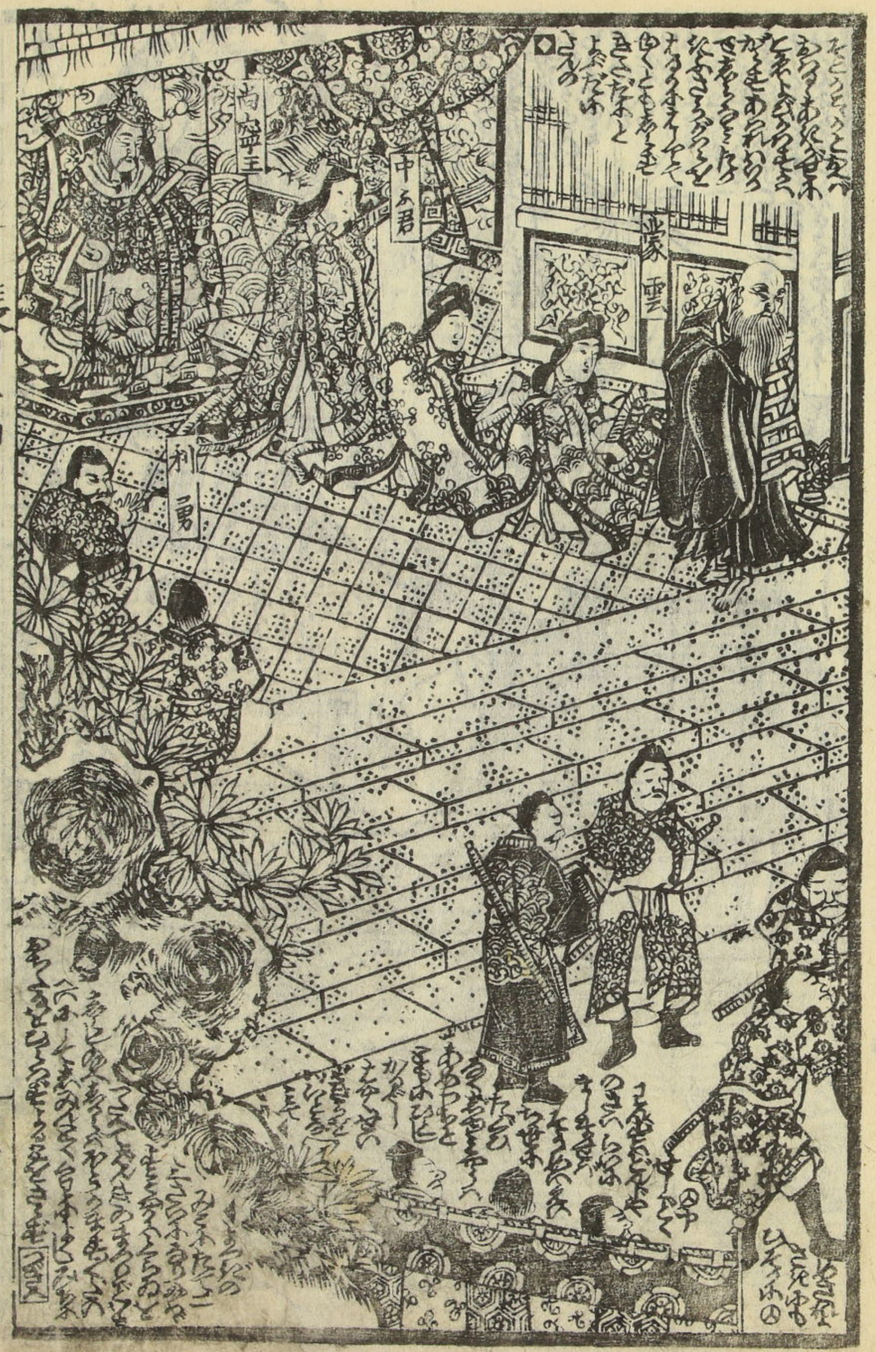


亀

報

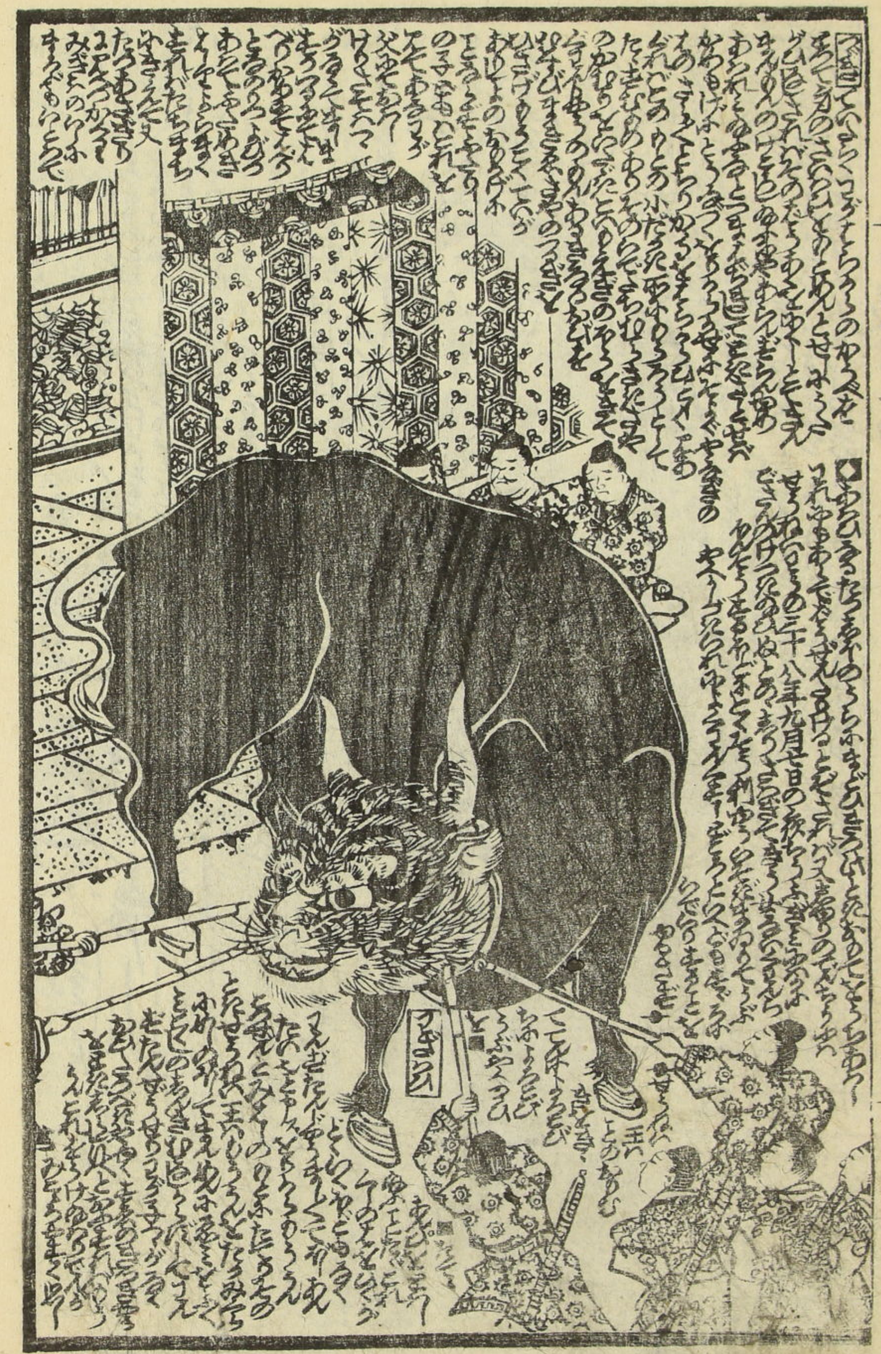
掌家
雲子

尚寧王
剣勇


中の君
尚益王
朴二男
玉琴雲







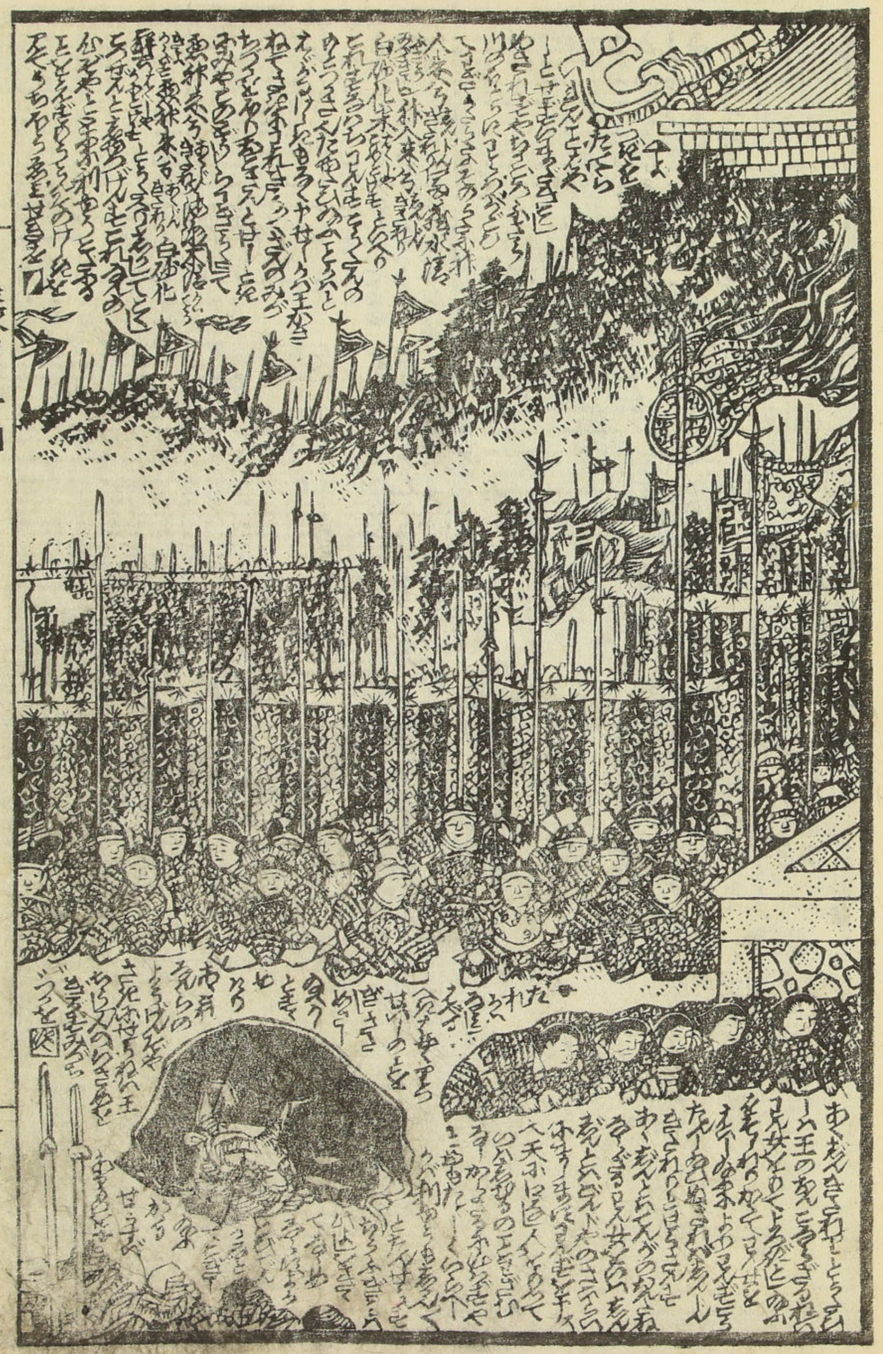
蒙雲

中婦君

尚盛王

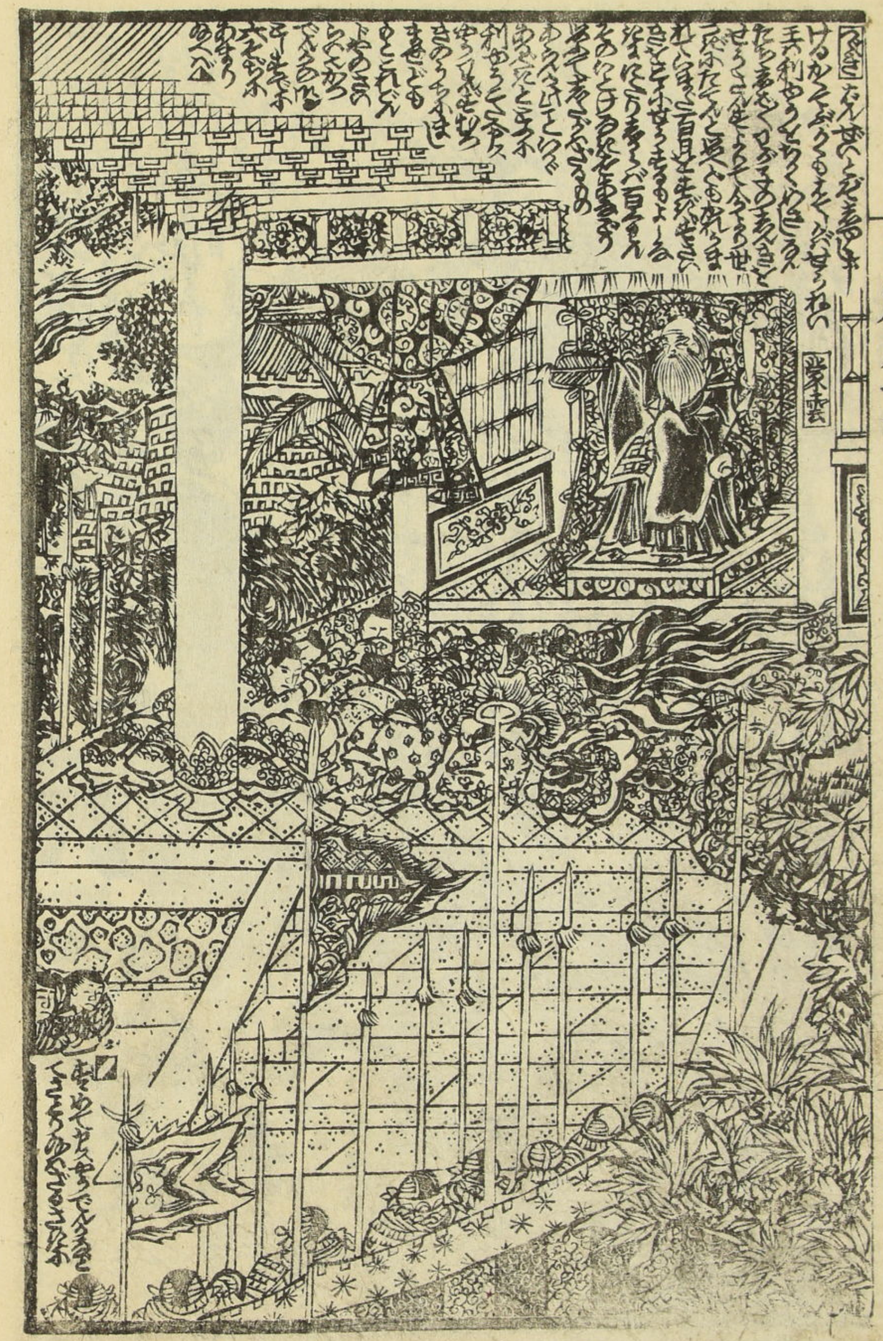


利勇









利勇
陶武寿

阿公

国鼎夫婦の霊

査国吉
雪王女

寧王女
木直國吉

# 國輝画伝

西馬譯

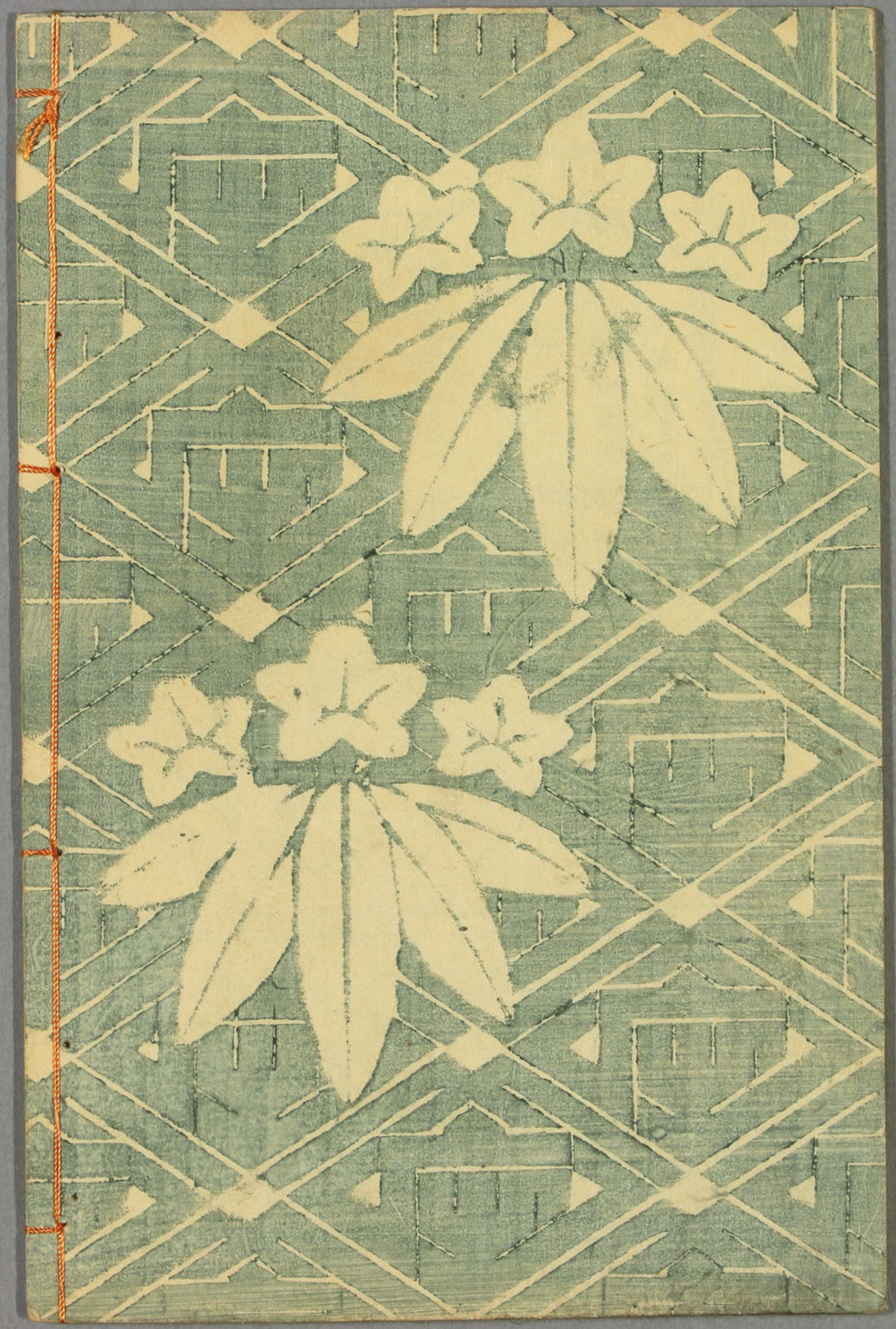



竹雀千代咦　西馬補綴　國輝画圖

聖徳太子大和鏡　万亭應賀作　一壽斎芳國良画

三鱸形鏡倉双帋　西馬作　國輝畫

雲龍九郎偷盗傳　故人三馬遺稿　増補西馬案画工一勇齋


釜地本草紙問屋　くろ門町　笑壽屋庄七版